

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:2024年 3月 28日

公表:2024年6月18日

事業所名 児童発達支援すだち

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	4	0	多くて危険を感じる時にはスペースを区切るようにしている。	室内ばかりになってしまうため、散歩など出られるように人員を調整していく。動きが大きい児が集まると人数が多いと感じる日もある。療育内容を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	5	3	0	職員人数に応じて活動室を仕切り療育内容を変えている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	0	活動と遊びの時間の区切りをわかりやすくしている。視覚で理解できるよう絵カードを使ったり、順序を知らせ分りやすくしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	1	日々限られた時間で清掃、消毒を行っている。消毒、換気、ゴミの分別等細かく丁寧。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	2		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	2	情報を共有し、行える事はすぐに取り組んでいる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	4		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	0	7		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	1		研修への意欲を高めたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	1		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	4		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	3		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	3		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	3		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	2	活動内容を考える職員が持ち回りになっている	活動内容を全体で確認話し合うようにしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	2		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	1		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	2		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	1		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	1		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	3		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	4		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	8	対象児がいない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	8	対象児がいない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	2	園訪問を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	2		求められれば情報の提供を行うが、現在は動いていない。支援計画書を必要であれば持参するよう保護者に伝える。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	5	他事業所の専門職員による勉強会を実施した。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	4	並行通園のために各々保育園などで交流を持っている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	0	5		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	1	利用の時には必ず一日の様子や課題を保護者へ話し共有している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	2	6		フィードバックやモニタリングの時に個々に支援することはあるが、全体的なプログラムはない。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	2		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	2		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	1		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	4		並行通園の特性上、父母の会は難しい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	1		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	2	会報に加えホームページを月1回更新し様子を伝えている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	2		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	3		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	4		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	1		並行通園の特性上、毎日利用児が違いため訓練を行った曜日によって動きに多少の違いが出る。よく確認していく。 様々な緊急時が予想されるので話し合いの必要性を感じる。保護者にも周知するようにしていきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	1	その都度の反省から改善を行っている。	非常時のマニュアルをどの職員も目に付く場所に掲示していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	1		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	0	事業団内でリスクマネジメント委員会があり共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	0	事業団全体のオンライン研修もある。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	2		よく話し合っている。日々の忙しさに追われ曖昧にならないようにしている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援評価の集計結果

公表:2024年 6月 18日

アンケート期間:2024年2月10日～2024年2月29日

事業所名:こども支援センターすだち

保護者等数(児童数)49人 回収数 40人 割合82%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	31	7	2	0	0	・十分に広い。 ・もっと広いと伸び伸びと活動できると思う。 ・日によって人数が違うかもしれないが少し狭いと感じる。	
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	39	0	0	1	0	・職員の知識が豊富。 ・もう少し専門的な事が聞けると良い。 ・目が行き届いている。	専門性を高めるための研修を継続していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境※ i になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	38	1	0	1	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	40	0	0	0	0	・いつも綺麗に清掃されている。	廊下に髪の毛が落ちていたという指摘もあったので今後も丁寧な清掃を心掛けていきます。
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画※ ii が作成されているか	39	1	0	0	0	・面談で計画ができて助かる。	
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	38	1	0	1	0		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	39	0	0	1	0	・計画に合った関わり方をしてもらっている。	
	8	活動プログラム※ iii が固定化しないよう工夫されているか	38	1	0	1	0	・個別活動もあるので助かる。 ・活動をステップアップしてもらえるので嬉しい。 ・多彩なプログラムで活動していると感じる。	今後も季節や発達段階に応じたプログラムを提供します。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	17	6	4	13	0	・交流する場があったのかわからないが、並行通園で通っているのと特になくとも困らない。	事業所としての交流の機会はありませんが日頃の園での様子をお聞きして、支援内容を考えさせていただいています。
	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	37	0	0	0	3		
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	40	0	0	0	0	・子供に必要な支援等、その時が必要かを客観的に見えてない時が多いので適切と感じることができなかった。	説明する機会の不足を感じたので今後は掲示などでもお伝えします。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング※ iv 等)が行われているか	26	1	5	8	0	・子供の今のレベルと適切な声かけ等が専門の方から聞く事ができないため。	

保護者への説明等	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	38	1	0	1	0	・毎回とても丁寧に一日の様子を教えてくれる。 ・困った時に相談しやすい。	今後もわかりやすく丁寧にお伝えしていきます。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	39	1	0	0	0	・面談やフィードバックの時間があるので安心。 ・もう少しあると助かる。	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11	4	11	14	0	・保護者同士の交流はない。	現在、父母の会などはありません。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	37	1	0	2	0		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	39	0	0	0	1		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	37	0	0	2	1	・ホームページで活動の内容が見られるのが良い。 ・発信されれば毎回見る。	今後も随時、様子をお伝えしていきます。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	39	0	0	0	1		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	29	2	0	8	1		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	25	2	0	12	1	・避難訓練をやったと子供から聞くため安心している。	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	35	4	0	0	1	・とても楽しみにしている。 ・出来ない事や苦手な事はあがるが、通所を嫌がらない。 ・帰ってからその日の事を楽しそうに話してくれる。	これからも楽しみにしている。ただの安心できる場の提供をいたします。
	23	事業所の支援に満足しているか	36	3	0	0	1	・できるようになったことがたくさんあった。 ・通所してから成長を強く感じている。職員に感謝している。 ・安心して預けられる。	

※ i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

※ ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

※ iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されています。

※ iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

ご協力ありがとうございました。